学校整理番号(115)

動物看護科　昼間部

動物看護コース

２年生シラバス

学校法人 中村学園
専門学校 ちば愛犬動物フラワー学園

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	生命倫理・動物福祉					必修・選択必修の別	必修	
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2	単位
		通年	単位					
	2年	前期	単位	後期	単位			
		通年	2 単位					
	3年	前期	単位	後期	単位			
		通年	単位					
担当講師	佐藤 湧矢							
	実務経験	有	動物病院で2年の実務経験あり。					
授業概要	動物愛護、動物福祉の発展を学び、動物関連法規やヒトとの関わりから動物福祉への精神を養う。特に、日本と欧米の歴史から動物観の違いを知り、ヒトと動物の関わり方への変遷を学ぶ。５つの自由。が満たされることとは何かを考察する。家庭飼育動物、学校飼育動物、使役動物、産業動物、実験動物、野生動物に存在する生活の質。を学ぶ。					授業形式	講義	
到達目標	動物の死を含め動物看護師として、動物と飼い主の生活の質。に関する知識の習得。							
教科書・教材・服装等	コンパニオンアニマルの新健康管理学（インターズー）、専門基礎分野動物福祉学（インターズー）、現代社会と家庭動物（インターズー）、動物看護の教科書（第１巻）（緑書房）							

授業計画	授業内容
1~2	人と動物の関わりの歴史的変遷について学ぶ。
3~5	動物に関わる法律や規制について学ぶ。
6～7	５つの自由。について学ぶ。
8	動物愛護について①　意味、目的、概要
9	動物愛護について②　動物愛護法について
10	動物愛護について③　動物愛護法について
11	伴侶動物の福祉について学ぶ①
12	伴侶動物の福祉について学ぶ②
13	動物病院での福祉について学ぶ①
14	定期試験①
15	課題
16	前期復習
17	動物の生活の質（ＱＯＬ）について学ぶ
18	展示動物の福祉について学ぶ①
19	展示動物の福祉について学ぶ②
20	産業動物の福祉について学ぶ①
21	産業動物の福祉について学ぶ②
22	実験動物の福祉について学ぶ①
23	実験動物の福祉について学ぶ②
24	野生動物の福祉について学ぶ①
25	野生動物の福祉について学ぶ②
26	飼育動物の災害時の対応
27	安楽死について
28	グループワークを通して動物福祉に関する各自の思慮を深める。
29	後期総復習
30	定期試験②

成績評価方法		定期試験		
	・出席率		○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点			実施しない

成績評価基準		
	A評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト８割以上・平常点 優れている
	B評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト７割以上・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト６割以上・平常点 やや劣る
	F評価	出席率80％以下・定期試験や小テスト６割以下・平常点 劣る

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物形態機能学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	3 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	3 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	櫻井 峰香						
	実務経験	有	獣医師免許取得後、動物病院での勤務経験有。				
授業概要	動物形態機能学（N1)に引き続き、動物の身体の構造と働きを学ぶ。また、免疫学についても学ぶ。					授業形式	講義
到達目標	動物（特に犬猫）の体の仕組みと働きの知識を更に深める。また、免疫の概要について理解する。						
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　1巻　動物形態機能学						

授業計画	授業内容
1	N1時のテストの返却と答え合わせを行う。
2～3	循環器系について学ぶ。（血管　心臓の構造）
4～6	循環器系について学ぶ。（心臓における血液の流れ、心周期、心音、心電図）
7～8	循環器系について学ぶ。（血液循環　胎児循環）
9	血液について学ぶ。（総論）
10～13	血液について学ぶ。（赤血球、白血球）
14	血液について学ぶ。（血小板）
15	中間試験
16	試験解説　血液について学ぶ。（止血機構）
17	呼吸器系について学ぶ。（上気道）
18～19	呼吸器系について学ぶ。（肺）
20	酸ー塩基平衡について学ぶ。
21	泌尿器系について学ぶ。（腎臓）
22	泌尿器系について学ぶ。（尿管　膀胱　尿道）
23	内分泌系について学ぶ。（総論）
24～27	内分泌系について学ぶ。（各論）
28	生殖器系について学ぶ。（雄）
29	前期の内容を確認し、テスト対策を行う。
30	前期定期試験
31	定期試験解説　生殖器系について学ぶ。（雌）
32～33	繁殖について学ぶ。（総論　発情周期）
34～35	繁殖について学ぶ。（妊娠　分娩）
36～37	脳神経系について学ぶ。（総論）
38～39	脳神経系について学ぶ。（中枢神経系）
40	脳神経系について学ぶ。（末梢神経）
41	リンパ管系について学ぶ。
42～43	免疫学について学ぶ。（語句　システム）
44	後期の内容を確認し、テスト対策を行う。
45	後期定期試験

成績評価方法		定期試験	
	・出席率	○	筆記試験
	・定期試験や授業内テスト		実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		実施しない

成績評価基準		
	A評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト70～89点・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト60～69点・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物栄養学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	2 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	關 繭子						
	実務経験	有	動物病院にて勤務医として６年勤務。				
授業概要	前期には動物栄養学１で学んだ栄養学総論を復習し、また栄養学に関連した疾病の知識を身につける。後期では主要な疾病における栄養学について学び、各ライフステージに適した栄養指導ができるよう学習していく。					授業形式	講義
到達目標	動物栄養学１で身に付けた６大栄養素の知識と生理学を基に、栄養素の過多・不足による疾病を理解することが出来る。 各臓器毎の疾病を学び、オーナーに栄養学的な食事指導をすることが出来る。						
教科書・教材・服装等	動物栄養学						

授業計画	授業内容
1	復習：栄養と栄養素①
2	復習：栄養と栄養素②
3	栄養素の過剰と不足：炭水化物、脂質、ビタミン
4	栄養素の過剰と不足：ビタミン
5	栄養素の過剰と不足：ミネラル
6	ペットフードの表記
7	サプリメントの栄養学
8	中間テスト
9	尿路結石症の栄養学①
10	尿路結石症の栄養学②
11	肝臓疾患の栄養学①
12	肝臓疾患の栄養学②
13	腎臓疾患の栄養学
14	心臓病の栄養学
15	前期テスト
16	前期テスト返し
17	消化器疾患の栄養学①
18	消化器疾患の栄養学②
19	消化器疾患の栄養学③
20	消化器疾患の栄養学④
21	膵臓疾患の栄養学①
22	膵臓疾患の栄養学②
23	糖尿病の栄養学
24	アレルギー疾患の栄養学①
25	アレルギー疾患の栄養学②
26	食物アレルギーの栄養学
27	癌疾患の栄養学①
28	癌疾患の栄養学②
29	総まとめテスト
30	テスト返し／復習

成績評価方法	・出席率（80％を切るようなら評価を一つ下げる）	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	定期試験や小テスト80点以上
	B評価	定期試験や小テスト70点以上
	C評価	定期試験や小テスト60点以上
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	産業動物学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	1 単位		
		通年	単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	琴寄 昌子						
	実務経験	有	動物病院勤務の中で培った知識、技術をもとに看護師として必要な知識の習得にいかす				
授業概要	産業分野で扱われる動物について、学ぶ					授業形式	講義
到達目標	産業動物における　飼養、疾患について理解する						
教科書・教材・服装等	テキスト						

授業計画	授業内容
1	産業動物　概論
2	家畜とは
3	牛　品種　生理
4	牛　疾病　感染症以外
5	牛　疾病　感染症
6	牛　飼養管理　食品衛生
7	馬　品種　生理
8	馬　感染症
9	反芻　第一胃　復習
10	山羊　品種　生理
11	羊　品種　生理
12	山羊　羊　共通している特徴
13	山羊　羊　疾病
14	まとめ
15	テスト

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	野生動物学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	1 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	中村 琴音						
	実務経験	無					
授業概要	変わりゆく野生動物と人との関わり、現状をを正しく理解する					授業形式	講義
到達目標	日本固有種、外来種、天然記念物の　指定目的、種類を理解する						
教科書・教材・服装等	タブレット、配布資料						

授業計画	授業内容
1	授業説明
2	絶滅、国際協力
3	野生動物とは
4	固有種
5	日本固有種
6	天然記念物
7	外来種問題
8	法律
9	日本の野生生物保護体系
10	展示動物の福祉
11	外来種まとめ
12	外来種小テスト
13	テスト対策
14	テスト返し、解説
15	フィールドサイン
16	野生動物調査
17	管理対象の動物
18	餌付け問題
19	野生動物被害
20	野生動物救護
21	日本の野生動物まとめ
22	野生動物に関わる法律
23	展示動物の福祉
24	日本固有種
25	外来種
26	試験対策
27	自主学習
28	期末試験
29	1コマ分課題（野生動物のレポート提出）

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率96~100%・定期試験や小テスト881~100点・平常点 優れている
	B評価	出席率90～95%以上・定期試験や小テスト60~80点以上・平常点 普通
	C評価	出席率90%以上・定期試験や小テスト40～60点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物病理学					必修・選択必修の別	必修	
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位	
		通年	単位					
	2年	前期	単位	後期	単位			
		通年	2 単位					
	3年	前期	単位	後期	単位			
		通年	単位					
担当講師	村上 覚史							
	実務経験	有	大学卒業後、JOCV（青年海外協力隊）に参加して、シリアアラブ共和国の乳牛疾病診断センターで病理診断を担当しました。そして、千葉県家畜保健衛生所や家畜衛生研究所で産業動物の病理診断をやりました。後に、東京農業大学農学部の動物衛生学研究室で動物解剖学やその衛生を教えながら、動物介在食中毒菌や産業動物の健康について研究をし、そのかたわら自己の病理技術を生かして臨床家から送られた小動物の病理診断もやってきました。					
授業概要	動物病理学は、病因や死因のメカニズムを学びます。 病理診断する人（ライセンス保持者）をpathologistといい、細胞診や病理組織からその原因を追究し、その診断結果を臨床家と共有して臨床家の治療行為をバックアップします。「死因は〇〇による感染症ですよ。良性の〇〇腫瘍です。」のように。動物看護を学ぶ学生は、そういう流れの中に動物病理学はあり、病態のメカニズムへの理解を深めるよう頑張ってください。					授業形式	講義	
到達目標								
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書（EDUWARD Press）２巻							

授業計画	授業内容
1	病理学とは何か。動物の病理学について。
2	病態を知る方法の基本となる病理検査とその必要性へについて
3	疾病の外部要因について（その１）
4	疾病の外部要因について（その２）
5	疾病の内部要因について
6	疾病に関わる免疫反応の基本
7	細胞の死（壊死とアポトーシスなど）
8	障害と細胞死（その１代謝障害）
9	障害と細胞死（その２代謝障害）
10	障害と細胞死（その３代謝障害）
11	障害と細胞死（その４代謝障害）
12	細胞（組織）の萎縮、肥大、過形成、化生について
13	細胞分裂　細胞の増殖について
14	組織、細胞の修復と再生
15	前期試験
16	血液循環とその障害（血液分布異常、凝固、溶解）
17	止血機構、血管が詰まる要因やリンパ液の循環障害
18	血液循環障害のまとめとショックについて
19	炎症について、その原因
20	免疫反応の基本
21	急性炎症と慢性炎症
22	炎症の形態的変化
23	免疫異常による疾患、移植における免疫反応
24	1-① 腫瘍とは何か
25	1-② 腫瘍の分類と命名
26	1-③ 腫瘍の増殖、宿主の影響、腫瘍免疫
27	1-④ 腫瘍の原因、発生のメカニズム
28	1-⑤ 腫瘍の種類
29	先天異常
30	後期試験

評価	・出席率	定期試験		筆記試験
	・小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％・小テスト８０％・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・小テスト７０％・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・小テスト60～70％・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物薬理学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	単位					
	2年	前期	単位	後期	単位			
		通年	2 単位					
	3年	前期	単位	後期	単位			
		通年	単位					
担当講師	森本 正樹							
	実務経験	有	自身の動物病院で２５年以上の臨床経験					
授業概要	薬物に関する知識は動物看護業務において必須である　より深く実践的な理解を得るため、薬理学のみに限らず形態機能学や病理学等と絡めて講義を行う						授業形式	講義
到達目標	薬物が生体に及ぼす影響を理解し、臨床の現場で必要な薬の知識を習得する							
教科書・教材・服装等	独自のテキストを配布							

授業計画	授業内容
1･2	薬理学とは
3	薬物治療の目的　薬理作用
4	薬理作用の発現
5	リガンドとレセプター
6	作動薬と遮断薬（拮抗薬、ブロッカー）
7	薬物動態
8	半減期と耐性
9	薬物の相互作用　薬の副作用
10	薬物の管理
11	薬物の開発
12	薬剤の投与経路
13･14	薬用量の計算
15	定期試験
16	末梢神経に作用する薬
17	交感神経作動薬
18	交感神経遮断薬
19	副交感神経作動薬
20	副交感神経遮断薬
21	筋弛緩薬と局所麻酔薬
22	中枢神経に作用する薬　全身麻酔薬
23	吸入麻酔薬
24	注射麻酔薬
25	鎮痛薬
26	鎮静薬
27	抗痙攣薬
28	問題行動治療薬
29	薬用量計算
30	定期試験

成績評価方法				
	・出席率	定期試験		筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準		
	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物感染症学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	2 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	櫻井 峰香						
	実務経験	有	獣医師免許取得後、動物病院での勤務経験有。				
授業概要	動物感染症学(N1)に引き続き、病原体について学ぶ。 寄生虫以外の病原体の特徴について理解する。					授業形式	講義
到達目標	寄生虫、細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌の生物学的な特徴を理解し、それぞれの予防の大切さを伝えられる。また各病原体が引き起こす疾患も理解できる。						
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書　３巻　動物感染症学						

授業計画	授業内容
1～4	N1の復習
5	ズーノーシスとは何か理解する。（定義　分類）
6～9	寄生虫が原因のズーノーシスについて学ぶ。（トキソカラ症　エキノコックス症など）
10～13	細菌の特徴について学ぶ。（構造　分類　染色法　増殖過程　検査法）
14	前期の内容を確認し、テスト対策を行う。
15	前期定期試験
16	定期試験解説　主な細菌感染症について学ぶ。
17～21	細菌が原因のズーノーシスについて学ぶ。（サルモネラ症　パスツレラ症など）
22～23	リケッチア・クラミジア・マイコプラズマの特徴と疾患について学ぶ。
24～26	真菌の特徴と主な感染症について学ぶ。（分類　増殖要因　検査法）
27	真菌が原因のズーノーシスについて学ぶ。（皮膚真菌症　クリプトコッカス症）
28	食中毒総論
29	後期の内容を確認し、テスト対策を行う。
30	後期定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト70～89点・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト60～69点・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	公衆衛生学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	2 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	太田紘平						
	実務経験	有	現役獣医師としての実務経験を織り交ぜつつ、専門学校での公衆衛生学講義経験を生かす。				
授業概要	公衆衛生はヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療で関わるうえでも重要な分野である。人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生、滅菌や消毒、動物防疫学についても学習し、ヒトや動物の疾病予防、早期発見、健康維持や増進に役立つ知識を習得する。					授業形式	講義
到達目標	公衆衛生の基本を理解し、人獣共通感染症や食品衛生の知識を深め、その知識を基に、将来動物看護師として動物病院内での衛生面での注意や飼い主への衛生管理指導に活かす土台を築くことができる。						
教科書・教材・服装等	インターズー　応用動物看護学②						

授業計画	授業内容
1	公衆衛生の定義や歴史を知る。
2	公衆衛生行政と国民衛の動向を知る
3	疫学の定義、概要及び疫学の指標を学ぶ
4	疫学の研究方法を学ぶ
5	感染症の疫学を学ぶ
6	サーベイランスについて学ぶ。
7	中間テストを行う。
8	食品衛生法の概論を学ぶ
9	食中毒（細菌性）について学ぶ
10	食中毒（ウイルス性、寄生虫）について学ぶ
11	食中毒（化学物質）、アレルギー様食中毒、自然毒による食中毒について学ぶ
12	食品とアレルギー、アレルギー表示、動物性食品の衛生について学ぶ
13	食品の保存法について学ぶ
14	食品由来の健康被害防止について学ぶ
15	前期期末試験を行う
16	環境衛生概論と地球環境問題について考える
17	環境問題と大気の衛生について学ぶ
18	大気の衛生と水の衛生(概論)について学ぶ
19	上水道と下水道について学ぶ
20	水質汚濁と水系感染症について学ぶ
21	生活環境問題(シックハウス症候群)について学ぶ
22	中間テストを行う。
23	生活環境問題(騒音、臭気)について学ぶ
24	廃棄物問題(分類とマニフェスト)について学ぶ
25	廃棄物問題(感染性廃棄物と特定廃棄物)について学ぶ
26	衛生動物について学ぶ
27～29	前期・後期の振り返り復習を行う
30	後期定期試験を行う

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率90％以上・定期試験正答率90％以上・小テスト、平常点良好
	B評価	出席率90％以上・定期試験正答率80％以上・小テスト、平常点普通
	C評価	出席率90％以上・定期試験正答率70％以上・小テスト、平常点やや劣る
	F評価	出席率80％以下・定期試験正答率60％以下・小テスト、平常点不良

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物臨床検査学					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	4 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	4 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	琴寄 昌子						
	実務経験	有	動物病院勤務の中で培った知識、技術をもとに看護師として必要な知識の習得にいかす				
授業概要	動物を診察する際に行う様々な臨床検査について、その目的を解剖学的・生理学的に理解し、実際の手技に反映できる動物看護師としての技術取得を目的とする					授業形式	講義
到達目標	動物看護師における臨床検査での役割を意識し、獣医師が次に行うと思われる検査項目の準備、手技、検査結果の意義について習得することが出来る。						
教科書・教材・服装等	プリント、教科書						

授業計画	授業内容
1～2	眼・皮膚検査復習
3～4	心電図の成り立ち
5~6	不整脈について
7~8	レントゲン検査の原理
9~10	レントゲン検査　撮影法（胸部・腹部）
11~12	レントゲン検査　撮影法（関節）
13~14	関節疾患
15~16	血液検査　赤血球
17~18	血液検査　白血球
19~20	薬剤　投与経路について
21~22	血液検査　腎臓
23~24	血液検査　肝臓
25~26	血液検査　電解質
27~28	血液検査　生化学その他　凝固系
29	テスト
30	テスト解説
31~32	前期復習
33~34	リネン
35~36	レントゲン検査　復習
37~38	ＣＴ検査MRI検査
39~40	麻酔①
41~42	麻酔②
43~44	口腔疾患
45~46	超音波検査①
47~48	超音波検査②
49~50	補液①
51~52	補液②
53~54	電解質、平衡
55~56	貯留液
57~59	総まとめ
60	後期テスト

成績評価方法	・出席率（80%を切るようなら評価を一つ下げる）	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	定期試験や小テスト80点以上
	B評価	定期試験や小テスト70点以上
	C評価	定期試験や小テスト60点以上
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物入院管理					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	2 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	加藤　麻衣子						
	実務経験	有	動物病院勤務経験をもとに、入院患者およびその飼い主様に対しての適切な看護・対応を指導することができる。				
授業概要	飼い主と離れて病気の治療を受ける動物を、身体的・精神的な面から支える重要な仕事が入院管理である。入院中の動物の管理について、前半は食事・排泄・運動など管理の基本を、後半は動物の状態別に対処の方法を学んでいく。					授業形式	講義
到達目標	動物看護師として、基本的な入院管理の方法を学ぶことで、入院生活における動物のストレスを軽減できるよう対処ができる知識やテクニックを習得する。また、動物の性格や症状(状態)を把握し、その動物ごとに個別性のある看護が実施できるよう知識を習得する。						
教科書・教材・服装等	配布プリント(タブレット配布)						

授業計画	授業内容
1 ~2	動物入院管理：入院の目的、日常管理、飼い主の心理やインフォームドコンセントについて学ぶ。
3~4	入院看護とは：入院に関する注意点、飼い主のメンタルケアについて学ぶ。
5	看護動物の受け入れ：預かる際の手順と準備、入院動物を扱う際の注意点
6	入院環境の確認：病床の準備、ケース別による入院環境の配慮
7	入院動物の観察：入院動物の観察ポイント、記録と報告
8~9	入院室の衛生管理：入院室の清掃について、消毒に関する復習
10~11	運動と排泄：動ける動物の運動、歩行が困難な動物の補助／排泄困難な動物の補助
12	食事管理と補助：食欲がある動物・ない動物の給餌補助
13~14	動けない動物のケア：動けない動物の預かる際の注意点・褥瘡管理の方法について学ぶ。
15	試験
16	ペットホテル：健康な動物の預かりについて管理の方法について学ぶ。
17~18	混合ワクチン：次回伝染性疾患に向けての復習
19~20	伝染性疾患患者の看護：感染症に対する対策、感染動物の管理について学ぶ。
21~22	輸液管理：輸液の目的、準備、輸液中の動物の管理について学ぶ。
23	疼痛管理：痛みのある動物の特徴、管理について学ぶ。
24~25	術前・術後管理：手術室の管理について学ぶ。
26~27	術前・術後管理：術前・術後の動物の管理について学ぶ。
28~29	ICU患者の対応：ICU患者の管理について学ぶ
30	試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100～90％以上・定期試験や小テスト80点以上
	B評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト70点以上
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト60点以上
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物臨床看護学各論					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	2 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	2 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	加藤　麻衣子						
	実務経験	有	動物病院勤務経験をもとに、入院患者およびその飼い主様に対しての適切な看護・対応を指導することができる。また、死を迎える動物には『平和な死』への援助ができるよう、飼い主の精神的な支えになれるよう知識を身につける。				
授業概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それにより引き起こされる症状や必要な処置,治療を学ぶ。機能障害を持つ動物に対してどのように提供すべきか、評価と介入法について理解する。					授業形式	講義
到達目標	各疾患の対処を理解する						
教科書・教材・服装等	配布プリント						

授業計画	授業内容
1	動物の徴候やその対処について①
2	動物の徴候やその対処について②
3	動物の徴候やその対処について③
4	動物の徴候やその対処について④
5	動物の徴候やその対処について⑤
6	動物の徴候やその対処について⑥
7	動物の徴候やその対処について⑦
8	動物の徴候やその対処について⑧
9	感覚器疾患の動物の看護について①②：目
10	感覚器疾患の動物の看護について①②：耳
11	生殖器疾患の動物の看護について①：雌
12	生殖器疾患の動物の看護について②：雌、雄
13	生殖器疾患の動物の看護について③：雄
14	内分泌疾患の動物の看護について①
15	内分泌疾患の動物の看護について②
16	内分泌疾患の動物の看護について③
17	神経疾患の動物の看護について①
18	神経疾患の動物の看護について②
19	整形外科疾患の動物の看護について①
20	整形外科疾患の動物の看護について②
21	免疫・感染症疾患の動物の看護について①②
22	かゆみのある動物の看護について①
23	かゆみのある動物の看護について②
24	泌尿器疾患の動物の看護について①
25	泌尿器疾患の動物の看護について②
26	排便疾患の動物の看護について①
27	排便疾患の動物の看護について②
28	呼吸器疾患の動物の看護について①
29	呼吸器疾患の動物の看護について②
30	定期試験

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト80点以上
	B評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト70点以上
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト60点以上
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物疾病看護学						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位		授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	単位					
	2年	前期	単位	後期	単位			
		通年	1 単位					
	3年	前期	単位	後期	単位			
		通年	単位					
担当講師	關 薗子							
	実務経験	有	動物病院勤務の中で培った知識、技術をもとに看護師として必要な知識の習得にいかす					
授業概要	動物看護師として臨床の現場で必要な疾患について学ぶ。前期は疾患に伴う徴候について学習し、後期は各臓器ごとの疾患について学ぶ。						授業形式	講義
到達目標	各徴候における鑑別診断を挙げることが出来る。肝臓・腎臓・心臓に関連した疾病学を理解し、臨床に即した看護方法を身に付けることが出来る。							
教科書・教材・服装等	プリント、教科書							

授業計画	授業内容
1	体温異常の徴候。高体温、低体温、熱型について学ぶ。
2	心疾患の徴候。心雑音、ショックについて学ぶ。
3	呼吸器系疾患の兆候①呼吸困難について学ぶ。
4	呼吸器系疾患の兆候②咳嗽、鼻漏について学ぶ。
5	消化器疾患の兆候①下痢について学ぶ。
6	消化器疾患の徴候②嘔吐、吐出について学ぶ。
7	消化器疾患の徴候③排便困難、便の異常について学ぶ。
8	泌尿器疾患の徴候。多飲多尿、排尿困難について学ぶ。
9	肝臓疾患の徴候①腹部膨満について学ぶ。
10	肝臓疾患の徴候②黄疸について学ぶ。
11	肝臓疾患の徴候③肝性脳症について学ぶ。
12	神経疾患の徴候①痙攣、運動失調について学ぶ。
13	神経疾患の徴候②斜頸、麻痺について学ぶ。
14	期末テスト
15	期末テスト返し
16	肝臓疾患①肝臓の生理解剖についての復習。
17	肝臓疾患②肝性脳症、慢性進行性肝疾患について学ぶ。
18	肝臓疾患③肝臓の感染症、肝リピドーシスについて学ぶ。
19	腎臓疾患①腎臓の解剖生理について学ぶ。
20	腎臓疾患②急性腎不全について学ぶ。
21	腎臓疾患③慢性腎不全について学ぶ。
22	腎臓疾患④水腎症、猫の下部尿路疾患について学ぶ。
23	腎臓疾患⑤その他の腎臓疾患について学ぶ。
24	心疾患①心臓の解剖生理について復習。
25	心疾患②弁膜疾患について学ぶ。
26	心疾患③うっ血性心不全について学ぶ。
27	心疾患⑤猫の心疾患について学ぶ。
28	心疾患⑥先天性循環器疾患について学ぶ。
29	後期総まとめテスト
30	後期テスト復習

成績評価方法			
	・出席率(80%を切るようなら評価を下げます)	定期試験 ○	筆記試験
	・定期試験や中間テスト		実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		実施しない

成績評価基準		
	A評価	定期試験や小テスト8割以上・平常点 優れている
	B評価	定期試験や小テスト7割以上・平常点 普通
	C評価	定期試験や小テスト６割以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物医療コミュニケーション						必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期		単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年		単位				
	2年	前期	1	単位	後期	単位		
		通年		単位				
	3年	前期		単位	後期	単位		
		通年		単位				
担当講師	青柳紘枝							
	実務経験	有	動物病院に動物看護師として勤務していた際に身についた接遇の経験とスキルを活かし、実際にあったケースを交えながら指導することができる。					
授業概要	ホスピタリティとは何かを理解し動物看護師として必要な飼い主様からの信頼を得るための身だしなみや言葉遣い・接客時の基本的を身につけ、コミュニケーション能力を上げるための基本的な接遇トレーニングを行う。また、スタッフ間コミュニケーションを円滑に行うために必要なビジネスマナーを習得し、一社会人としての行動ができる能力を養う。						授業形式	演習
到達目標	動物病院内での接遇の基本を身につけ、マナーある社会人としての接し方ができ、さらには飼い主様・共に働くスタッフとの間に信頼関係を築くことができるコミュニケーションを取ることができるようになる。							
教科書・教材・服装等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書（EDUWARD Press）8巻、共有資料							

授業計画	授業内容
1	授業概要説明/ホスピタリティについて考える
2	飼い主様をお出迎えする前の準備を考える
3~4	獣医療面談（飼い主様来院時）の対応の学習と実践
5~6	獣医療面談（問診）時の学習と実習
7~10	問診内容の学習と実践
11~12	受付～問診～診察室へのご案内までの復習と実践
13~14	入院動物と飼い主の面会対応の学習と実践
15~16	様々なケースでの患者動物のお預かりの学習と実践
17~18	退院やお返しの際の学習と実践
19~20	精算対応の学習と実践
21~24	電話対応の学習と実践を行う。
25~26	円滑なスタッフ間コミュニケーションを習得する。

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実技試験
			○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率90%以上・平常点 優れている
	B評価	出席率90%以上・平常点 普通
	C評価	出席率80%以上・平常点 やや劣る
	F評価	出席率80%以下・平常点劣っている

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	グルーミング実習					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	4 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	4 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	粟盛 真理						
	実務経験	無					
授業概要	実習形式で行う。犬種ごとの違いを学ばせる。					授業形式	実習
到達目標	1年時よりさらに基本をスキルアップさせ看護師として必要なベイジング～トリミングを身につけさせる事を到達目標とする。						
教科書・教材・服装等	グルーミングマニュアル・自作プリント・グルーミング道具、実習着						

授業計画	授業内容
1~6	道具の使い方再確認・多犬種を使い1年時の復習実習
7~12	道具の使い方再確認・多犬種を使い1年時の復習実習
13~18	道具の使い方再確認・多犬種を使い1年時の復習実習
19~24	多犬種を使いグルーミング実習/1人での施術法を学ばせる
25~30	多犬種を使いグルーミング実習/保定を学ばせる
31~36	多犬種を使いグルーミング実習/保定を学ばせる
37~42	時間を意識させ多犬種を複頭数グルーミング実習
43~48	時間を意識させ多犬種を複頭数グルーミング実習
49~54	時間を意識させ多犬種を複頭数グルーミング実習
55~60	時間を意識させ多犬種を複頭数グルーミング実習
61~66	時間を意識させ多犬種を複頭数グルーミング実習
67~72	グルーミングに関わる内容の実習内筆記テストを行い、前期の評価認定とする。
73~78	前期の復習/ライセンスに向けての犬種を使い実習
79~84	時間を意識させライセンス犬種を使ったグルーミング実習
85~90	時間を意識させライセンス犬種を使ったグルーミング実習
91~96	時間を意識させライセンス犬種を使ったグルーミング実習
97~102	多犬種を使いグルーミング実習
103~108	多犬種を使いグルーミング実習
109~114	多犬種を使いグルーミング実習
115~120	多犬種を使いグルーミング実習
121~126	ライセンス犬種を使いグルーミング実習
127～132	ライセンス犬種を使いグルーミング実習
133～138	ライセンス同様の内容と時間で模擬実習
139～144	グルーミング及びライセンスに関わる模擬テスト（実習内筆記）を後期評価認定とする。
145～149	ライセンス同様の内容と時間で模擬実習

成績評価方法	出席率	定期試験		筆記試験
	実技模擬テスト・筆記小テスト			実技試験
	平常点（提出物・授業参加意欲・受講態度など）		○	実施しない

成績評価基準	A評価	出席率100％～95％・定期試験や小テスト95点以上・平常点　優れている
	B評価	出席率94％～75％以上・定期試験や小テスト94～85％点以上・平常点普通
	C評価	出席率74％～70％以上・定期試験や小テスト84～75％点以上・平常点やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	動物臨床看護実習Ⅱ					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	5 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	5 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	迎一彦・村田佳輝・太田弘平・琴寄晶子						
	実務経験	有	現場の経験を活かしたリアルな実習授業を行っている。				
授業概要	診療現場で必要な検体検査や生体検査および処置に関する意義を理解し、基本的手技を身につける。前期は血液検査、心電図検査、レントゲン検査、超音波検査を中心とした検査の準備や正確な手技の習得、後期は麻酔に関する知識や手技、歯石除去法、エキゾチックアニマルの扱いなどを習得し、手順や要領を考慮した行動から、問題解決能力や看護実践能力を身につける。					授業形式	実習
到達目標	・より実践的な動物看護における問題解決や看護実践ができるようになる・採血の準備、適切な検体の処理等ができるようになる・血液検査を含めた基本的な検体検査が行えるようになる・基本的な心電図測定やレントゲン撮影などの生体検査ができるようになる・麻酔下にある動物の基本的なバイタルの管理・口腔衛生処置ができるようになる						
教科書・教材・服装等	動物看護実習テキスト、実習着						

授業計画	授業内容
1~3	1年次復習（皮膚検査各種・便検査・尿検査・身体検査・バイタルサイン・採血保定法）を行う
4~6　7~9	心電図の手技を学ぶ / 採血の準備・ヘマトクリット管での検査（PCV・黄疸指数・BC・TP）を学び実践する
10~12	フィラリア検査の手技を学び実践する
13~15	【猫実習】猫の保定の復習を行う
16~18　19~21	胸部レントゲン撮影の手技を学ぶ / 血管確保や採血の準備や方法を学び実践に備える
22～24	血球計算機・血液生化学検査説明の使い方 / 皮下注射練習
25~27	【猫実習】猫の採血保定の復習を行う
28~30	生化学(肝臓について）について学ぶ
31~33　34~36	腹部レントゲン撮影の手技を学ぶ / 大型犬の保定ができるようになる
37~39	生化学(血糖値、総コレステロール)について学ぶ、サフェナの保定練習、皮下注射練習を行う
40~42	生化学(血漿タンパク質について)について学ぶ、頚静脈採血の保定練習、皮下注射練習を行う
43~45　46~48	股関節レントゲン撮影の手技を学ぶ／静脈確保、輸液
49~51	【猫実習】猫の採血法について学ぶ、生化学（腎臓)について学ぶ
52~54	生化学（電解質)について学ぶ
55~57　58~60	超音波検査（心臓）／薬局業務
61~63	一般家庭犬を通して様々な犬の扱いに慣れる
64~66　67~69	超音波検査（膀胱など）・血圧／血管確保・輸液（輸液ポンプ・シリンジポンプ）
70~72　73~75	前期で学んだ検査の手技の確認を行う（実技テスト）
76~78	前期で学んだ検査の復習を行う
79~81　82~84	前期の復習（Xray・Echo）/留置針設置や点滴の準備ができるようになる
85~87	血液塗抹標本作成の練習する
88~90	【猫実習】犬猫の血球の違いについて学ぶ
91~93　94~96	入院管理業務について学ぶ/エキゾチックアニマルの扱いや保定を習得するの保定について学ぶ
97~99	白血球の分類ができるようになる

100~102　103~105	大型犬の保定ができるようになる/採血練習ぬいぐるみ・皮下補液
106~108	百分比の算出について学ぶ
109~111	百分比の算出ができるようになる・左方移動について
112~114　115~117	麻酔器の使用について学び、麻酔導入の準備ができるようになる／薬局業務を実践練習を行う
118~120	【猫実習】ウイルス検査の検査手技を学ぶ（FIV/FeLv）
121~123	救命救急処置について学ぶ
124~126	パルボ検査の手技を学び実践する
127~129	歯石除去を行う／手術関連業務（リネン類等の種類と準備）
130~132　133~135	歯石除去を行う／ニューメチレンブルー染色の検査意義と手技を学ぶ
136~138	一般家庭犬を通して様々な犬の扱いに慣れる
139~141	一般家庭犬を通して様々な犬の扱いに慣れる
142~144	救命救急処置について学ぶ
145~147　148~150	外部企業実習に向けた心構えをまとめる／小動物の扱いや保定を習得する
151~153	振り返り
154~156	2年次で学んだ内容の確認を行う（試験）

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・実技試験		○	実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率99～90％以上・実技試験A評価・平常点 優れている
	B評価	出席率89～80％以上・実技試験B評価・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・実技試験C評価・平常点やや劣る
	F評価	出席率80％以下・実技試験C評価・平常点 劣る

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	コミュニケーション					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	1 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	青柳紘枝　加藤麻衣子						
	実務経験	無					
授業概要	社会人として必要な知識やコミュニケーション能力を学校生活を通じて会得していく。					授業形式	講義
到達目標	社会人としてのビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付ける。						
教科書・教材・服装等	無し						

授業計画	授業内容
1	２年次の学校生活について①
2~3	学校行事についてのディスカッション①
4~5	学校行事についてのディスカッション②
6~7	学校行事についてのディスカッション③
8~9	学校行事についてのディスカッション④
10~11	学校行事についてのディスカッション⑤
12~13	学校行事についてのディスカッション⑥
14~15	学校行事についてのディスカッション⑦
16~17	学校行事についてのディスカッション⑧
18~19	学校行事についてのディスカッション⑨
20~21	学校行事についてのディスカッション⑩
22~23	学校行事についてのディスカッション⑪
24~25	学校行事についてのディスカッション⑫
26･27	学校行事についてのディスカッション⑬

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実技試験
			○	実施しない

成績評価基準	R評価	出席率80％以上・提出物・平常点 優れている
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	就職ガイド					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	1 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	1 単位		
		通年	単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				
担当講師	植田 慎司						
	実務経験	無					
授業概要	動植物業界で求められる人材の育成。今後始まる就職活動に向けての必要な知識を身につけ、キャリアプランの構築を行う					授業形式	講義
到達目標	①自己分析を重点的に行い、文章化・表現化を出来るようにする②業種・職種・企業研究を行うと同時にキャリアプランを構築する③コミュニケーション能力の向上						
教科書・教材・服装等	就職活動用ファイル						

授業計画	授業内容
1	自己紹介、これから始まる就職活動に向けて
2	白ファイルの説明と封入作業　働く意義
3	今年度の求人と大手企業の説明
4	動物看護総合臨床実習（体験型実習）　獣医師会指定病院希望調査
5	自己PRの作成方法とLIFOの振り返り
6	自己ＰＲの本構築　作成
7	自己ＰＲの作成。
8	業界・業種志望理由の基本構築。
9	業界・業種志望理由の作成。
10	履歴書の書き方
11	身だしなみチェック・履歴書作成
12	求人票の見方
13	社会保険について
14	企業研究の仕方
15	レポート提出、今後の流れ、ISの心構えとフィールドワークについて

成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・期末レポート提出			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない

成績評価基準	R評価	出席率80％以上・提出物・平常点 優れている
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合

シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科				コース名	動物看護コース	
科目名	ビジネストレーニング/パソコン					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	単位	後期	単位	授業単位合計 ※授業50分を1時間とする。	3 単位
		通年	単位				
	2年	前期	単位	後期	単位		
		通年	3 単位				
	3年	前期	単位	後期	単位		
		通年	単位				

授業概要	【ビジネストレーニング】伊東絹子		
	実務経験	有	コミュニケーションマナー講師として３０年以上の経験を持つ。また、マナースキルの源となるホ
	【パソコン】中島 雅子		
	実務経験	有	MOS取得。パソコンインストラクターとしての実務経験は20年以上。

授業概要	【ビジネストレーニング】 マナーの重要性に自らの気づき実践出来ることを念頭に、インタラクティブな講座とする。また、WhyとHowをバランス良く取り入れて進行していく。ロールプレイでは日常の立ち居振る舞いや動物病院での現場に則した内容で、即実践出来る内容とする。	授業形式	講義
	【パソコン】 Windowsの基本操作を理解し、学生生活でも社会人になっても役に立つWord文書作成、及びExcel表計算の基本機能や操作方法を学ぶ。また、情報化社会を生きる上で必要とされるネット利用のマナーの習得・情報検索を一部の講義と演習を組み合わせて実施する。	授業形式	講義

到達目標	【ビジネストレーニング】 自主的に、かつ臨機応変に対応できるマナーが実践できる。また、身につけたコミュニケーションマナーを動物病院のみならず学園や日常生活の中で自然に生かし、多くの人との出会いの中で信頼関係が築けることを目標とする。
	【パソコン】 ・Windowsの基本的な操作に慣れる。 ・ローマ字入力による文字入力を効率的で正確に行うことができる。 ・Microsoft WordとExcelの基本操作を理解し、実践できる。 ・情報モラルを守る姿勢を身に付ける。
教科書・教材・服装等	【ビジネストレーニング】 ビジネスハンドブック・ビジネスハンドブックに基づいた講師作成のパワーポイントおよび資料
	【パソコン】 ・30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016（実教出版） ・USBメモリ

授業計画	授業内容
	【ビジネストレーニング】
1	オリエンテーション・ホスピタリティの理解
2	信頼関係構築のための五つの基本を学ぶ
3 ～ 5	五つの基本（挨拶・表情・身だしなみ・言葉遣い・態度）の内容を深め実習を含め実践力を養う
6 ～ 7	敬語の基本と応用を学び、会話に取り入れ実習
8 ～ 10	話し方と聴き方から報告・連絡・相談の在り方を理解し実習する
11 ～ 13	電話応対の流れと実習
14 ～ 16	メール・訪問応対・冠婚葬祭のマナー・ロールプレイ
17 ～ 20	自己や他者の心理の理解
21 ～ 22	手紙のマナー
23 ～ 24	ジョハリの窓の実習
25	定期試験対策
16	定期試験と振り返り
	【パソコン】
1	オリエンテーション：PC教室利用上の注意・授業内容及び評価の説明・アンケート
	タイピング 基本トレーニング：PCの起動・ログイン方法・USBメモリの取扱い方・タイピング練習
2	Windowsの基礎知識：IMEと日本語入力・タイピング練習
	Word 基本１：ファイルの基本操作を覚える・効率よい入力方法・タイピング練習
3~4	Word 基本２：効率よく入力する（様々な文字の種類・記号の入力など）
5	Word 文書作成：編集の手順・編集作業・ページ設定など
6	Word 表現力をアップする：画像・イラスト・図形などの挿入とレイアウト
7	Word 表の作成：罫線とは・書式設定・レイアウト・様々な表を作ってみる
8	Word 書式応用：書式設定を使いこなす・自由なレイアウトの文書作成・ページ設定
9~10	Wordで学ぶ著作権：ネット社会と正しい著作権を知る
	Word まとめ：総復習の到達度テスト実施、自由作成課題を仕上げる、著作権を考える
11	Excel 基本１：基本操作を覚えよう・データを効率的に入力する・セルの書式設定
12	Excel 基本２：基本操作のまとめ・印刷設定・ページレイアウトの役割を知る
13	Excel 数式と関数：四則演算・連続データ・表示形式など
	Excel まとめ：総復習

成績評価方法	・出席率	定期試験	ビジネストレーニング	筆記試験
	・到達度テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		パソコン	実施しない

成績評価基準	【ビジネストレーニング】	
	A評価	出席率90％・定期試験80点以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80～90％以上・定期試験75～79点以上・平常点 普通
	C評価	出席率75％～79％以上・定期試験65点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合
	【パソコン】	
	A評価	出席率90％以上・到達度テスト80％以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80％以上・到達度テスト70％以上・平常点 普通
	C評価	出席率80％以上・到達度テスト60％以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合